

The meaning of "getting together" to older-elderly women in a mountainous community

メタデータ	言語: eng 出版者: 公開日: 2017-10-06 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: Ishihara, Takako メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/2297/19483

平成 19 年 2 月 23 日

博士論文審査結果報告書

学位授与番号 医博甲第 1854 号

学籍番号

氏 名 石原 多佳子

論文審査員

主 査 (教授) 城戸 照彦

副 査 (教授) 泉 キヨ子

副 査 (北海道大学教授) 佐伯 和子



論文題名 The meaning of “getting together” to older-elderly women in a mountainous community

論文審査結果

論文内容の要旨：本研究の目的は、山間地域の女性後期高齢者が地域で集うことの意味づけを明らかにすることである。研究方法は、サロンにおける参加観察と、グランデッドセオリーアプローチを用いて、H市A地区に住む、すでに解散した後期高齢者のサロンに参加した17名を対象に半構成的面接を中心にデータ収集及び分析をした。

女性後期高齢者は、自分と共通の価値観や立場、あるいは健康認識レベルに合わせて集う場を選択していることが明らかになった。集うことの意味は5つのカテゴリー《共通の価値観や立場を基盤として、支えあえる仲間の存在が実感できる》《健康認識の共有、共感、実感できる》《閉鎖的な農山村社会ゆえの解放感の満喫や自由空間の共有できる》《達成感を共有することができる》が見いだされた。自主的な集まりの場では《リーダーを通して自分たちの意思が反映される》が集う場の推進力となっていた。女性後期高齢者が集うことは、生の有限性を見据えつつ、仲間との関係性の中で【自分らしさ、自分であることを保つこと】の中核カテゴリーが抽出された。この地域においては特に後期高齢者が歩いて出かけていける範囲で、多様な型の集う場が選択できるような地域づくりが必要であることが示唆された。審査結果の要旨：質疑に対して以下のように明確に回答が得られた。①4ヶ所に絞った集う場に対象者全員がすべてに参加していなかったことについて、全員が共通して関心をもちインタビューの中に、その思いが出てきていたことで、十分分析に耐えうるといえた。②老人クラブを集う場の対象に選ばなかったのは、若い世代の集まりであり、高齢者の意識の中に深く影響しているといえないと判断できたので除外し、このことは妥当であった。③カテゴリー名が長いものがあるが、山間の地域特性を表すために意図的に入れたものである。④後期高齢者は、身体的な老いや家族との価値観の違いなどから、家族と同居していても会話が非常に少ないことが明らかになり、集うことによって人との関係性の中で、いっそう自分らしさを保つことができると考えた。今後の課題として以下の点が明らかにされた。①男性後期高齢者は集うことをどのように捉えているのか②自主的な活動を支えるうえで、行政がどこまでどのような形で関わる必要があるのか。

以上、論文の内容、審査の経過等を総合し、本論文は博士後期課程の学位授与に値する。